

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立旭小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話的な学び」を軸に学力の定着に向け算数科を中心に授業改善に取り組んできた。その結果、児童の学力は全学年で昨年度より向上した。今後はさらに主体的な学びになるよう、授業改善を目指していく。 ・「家庭学習の手引き」をもとに、学期に1回「旭っ子学習の記録（家庭学習調べ）」を行い、自己目標達成を目指しながら、家庭学習の推進を図ってきた。その結果、めあてを達成した児童の割合が増加した。家庭の協力を仰ぎながら、引き続き取組の推進を図っていく。 ・特別支援教育について全職員の専門性の向上をめざし、学級経営や授業に反映させるインクルーシブ教育を推進してきた。その結果、全職員が、専門性を高めることができたと感じている。次年度も、全ての児童にとって居心地の良い学校、学級になるような支援を目指して、インクルーシブ教育を推進していく。
2 学校教育目標	旭を愛し、やさしく・かしこく・たくましく生きる児童の育成
3 本年度の重点目標	①分かりやすい授業の実践による児童の学力向上 ②学力向上につながる家庭学習の推進 ③特別支援教育についての専門性の向上と実践

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ○県から旭小からの「家庭学習の手引き」をもとにしながら、家庭学習の推進を図る。	○深い学びを通して、算数で見つけたきまりや考えることは、「べんり」「かんた」「分かりやすい」と感じる児童の割合が85%以上 ○授業づくりのステップ1・2・3のチェックシートを活用し、授業力が向上したと感じた教師の割合が85%以上 ○学期に1回実施する、「旭っ子学習の記録（家庭学習調べ）」において、めあて達成の児童の割合が85%以上	・校内研究の教科である算数科を中心に、「深い学び」に視点を置きながら授業改善を図る。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」等を生かしながら、学習内容の定着を図るため分かりやすい授業に取り組む。 ・学期に1回「旭っ子学習の記録（家庭学習調べ）」を行い、自己目標達成を目指しながら、家庭学習の推進を図る。	B	・校内研究の算数科を中心に、「深い学び」に視点を置きながら授業改善に取り組んだ結果、83%の児童が肯定的な回答をしていた。多くの児童が、算数のよさや考える楽しさを感じて学習に取り組んでいたと考える。 ・授業づくりのステップ1・2・3のチェックシートを活用し、授業力が向上したと感じた教師は85.4%であった。教師が、高い意欲をもって分かりやすい授業づくりに取り組んでいたと考える。 ・年3回の家庭学習週間を通して、約70%前後の児童が、各学年におけるめあての時間を達成した。教師と保護者が声掛けや励ましを継続的にし、家庭学習の推進を図ることができた。	A	・取組の成果を正當に評価する。あわせて明確化した課題への対策を講じることで、継続的な成果の向上を図ってほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートで「友達に優しくしたり、友達と仲良くしたりすることができる。」に肯定的な回答をする児童が85%以上。	・人権意識を高める人権週間やアンケートの実施 ・特別の教科道徳の授業公開	A	・アンケートにて「友達に優しくしたり、友達となかよくすることができる。」に肯定的な回答が95%であった。 ・ほとんどの学級で、授業参観にてふれあい道徳を実施することができた。	A	・児童の理解度は良好であると思う。次のステップとして、授業参観で親世代も同時に学べる環境を整えることで、学習内容の定着と波及効果をさらに高められると考える。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等）のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教師85%以上	・「いじめ・いのちを考える日」に合わせ、毎月アンケートを実施 ・研修会の実施	A	・いじめ防止等に関する組織的取組ができている教師93.1%で達成した。教職員や保護者等による児童の観察と、月1回のアンケートにより未然防止と早期発見・早期対応ができている。迅速に組織的な対応ができていると考える。	A	・早期発見・早期対応が重要であり、継続的な実施を徹底してください。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・「ほめるからはじめる。はじまる。」を合言葉に、児童のよさを目を向け、ほめる。 ・毎月の「このころめあて」をテーマに、友達の善い行いを見つめる「心の宝さがし」活動を行う。学年で統一して行うなどして、互いを認め合ったり、自分のよさを知ったりすることができるようにする。	A	・アンケートの結果、よいところを認められていると感じている児童は86.4%、将来の夢があると答えた児童は78.5%であり、やや当初の目標値には達していないが概ね達成できていると考えられる。また、「これから考える予定」と答えた児童が15.9%おり、前向きに自己を捉えたり将来を考えたりしている様子が見られる。	B	・今の時代、ほめることの重要性はますます高まっている。その中で、このような素晴らしい活動を継続されているのは非常に意義深いことである。
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形成」	・「体の成長を考えて、よりよい運動・食事・睡眠を意識して取り組んでいる」と回答した児童80%以上	・運動・食事・睡眠に関する意識調査の実施 ・望ましい生活習慣について、興味・関心を高める取り組みを各委員会（体育・給食・保健）で行う。	B	・体の成長を考えて、よりよい運動・食事・睡眠を心がけていると答えた児童は、75.7%だった。 ・体育委員会より、ドッジボールラリー大会を実施し、多くのクラスが取り組み、運動する機会となった。 ・完食コンテストを実施し、残食を少なくしようとする意識を高めることができた。給食通園で、給食ができるまでの動画を視聴し、給食センターや仕入れ先に感謝の手紙を書く活動を通して、給食があることのありがたさを感じることができた。	B	・生活習慣への取り組みは着実に成果が表れており、非常に有意義な活動だと思う。
	◎「安全に関する資質・能力の育成」	・児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする。	・交通安全教室の実施 ・課題を設定し、児童の交通安全への意識向上を目指す。	B	・交通事故は1件あった。 ・防犯ブザー・ヘルメット点検では、昨年度よりも割合が低下していたため指導用スライドを作成し、各クラスで指導をした。	B	・子供たち一人一人に対し、この教室の開催意義を十分に周知した上で、活動を実践してください。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・職員から業務改善のアイデアを募り、それを基に「旭小働き方アクションプラン」を作成し、研修会を行い、教職員の意識改革を図る。 ・退勤時刻を意識して業務が進められるように、施設時刻30分前に放送を行う。	B	・年休取得日数14日以上は教職員は43%だった。10日以上は約70%いたため、次年度はさらに取得できるように勧めたい。 ・4月～1月の時間外勤務時間の平均は約26時間だった。会議の短縮や退勤時刻の意識化により、月45時間未満の教諭は87%まで増加することができた。	B	・教職員の働き方改革を、より一層推進してください。
●特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の実践充実	○特別支援教育に関する専門性が向上し、学級経営や授業に反映させることができたと感じる教職員60%以上	・インクルーシブ教育に関わる全体研修会の実施 ・ケース会議等の機会にコーディネーターが関わり、インクルーシブの視点を伝えていく。	A	・93%の教職員が専門性が向上し授業に反映できたと感じていた。ケース会議や校内の情報交換会、研修会等の機会を生かして、インクルーシブ教育について研修の機会が作れたと感じている。	B	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★教師の教科「日本語」の指導力向上に向けた教科「日本語」の職員研修を年2回以上実施 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間2回以上公開した学級率80%以上	・各種通信を活用して、取組を紹介する。	A	・教科「日本語」職員研修を年2回以上実施した。 ・教科「日本語」に係る保護者への情報公開を行った学級率88.6%で達成した。未公開の学級には今後も情報公開を呼びかける。令和8・9年度は鳥栖西中学校区教科「日本語」研究発表となるので、年度当初から情報公開するよう教職員に声掛けし確認を行っていきたいと考える。	B	・独自の教科「日本語」への取り組みについても高く評価している。
○地域社会との協働・連携	○コミュニティ・スクールの実践充実	○教育活動において地域人材を活用し、教育活動が充実したと感じる教師60%以上	・地域人材を活用した教育活動に取り組む。	A	・地域人材活用により、教育活動が充実した教師93.0%で達成した。家庭科等における学習や、朝読書、クラブ活動等におけるボランティアの方、学校運営協議会やサポーターズの方など、地域の方々のおかげで教育活動が充実している。今後も地域人材活用を充実できるよう人材バンクを確認する。	B	・地域人材の活用を最大化するため、専門性の高い人材の掘り起こしを強化し、人材バンクのさらなる拡充と充実に努める必要がある。

5 総合評価 次年度への展望	●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育 1. 授業改善による確かな学力の定着と主体的な学びへの進化。算数科を中心に「対話的な学び」や「深い学び」に視点を置いた授業改善を推進した結果、児童の学力は前年度より向上し、算数に対して肯定的な感情をもつ児童も約8割に達した。教職員の授業力向上に対する意識も非常に高いため、次年度はこれを基盤として、児童が自ら課題を見つけ解決していく「主体的な学び」へとさらに発展させることを目指す。 2. 家庭・地域との連携強化による学習・生活習慣の確立。「家庭学習の手引き」の活用や年3回の家庭学習週間により、目標を達成する児童の割合が増加している。また、地域人材を活用した教育活動についてもほとんどの教員が充実を感じており、高い成果を上げている。今後は、家庭学習のさらなる定着に向けて保護者との連携を継続するとともに、地域人材・バンクの活用等を通じて地域と共有する学校づくりを一層推進していく。 3. インクルーシブ教育の推進と安心・安全な学校環境の構築。特別支援教育に関する校内研修やケース会議を充実させたことで、ほとんどの教職員が「専門性が向上し授業に反映できた」と実感している。いじめの早期発見・早期対応についても組織的な対応が機能しているが、交通安全面で課題も残った。次年度は、全ての児童にとって居心地の良い学級づくり（インクルーシブ教育）を深化させるとともに、安全意識の徹底を図り、心身ともに健やかに成長できる環境を整える。
-------------------	--